

1. Nation's Synthesis について

3日の科学技術コンサルテーション会議にて紹介し、参加の皆さまよりご賛同を頂きました。

4日にはラジブ先生のご配慮で、バンコク、北京に次ぐアジア科学技術会合の開催地のマレーシアの副首相と面談する機会を得て、Nation's Synthesis をご説明する機会を頂き、具体事例の一つの候補となりそうです。

5日の official statement の場でも添付の通り発表させて頂き、これは質疑はございませんでしたが、私からの紹介に頷いている方が多くみられたのは幸いでした。

6日午前の summary session には北京師範大学の Saini Yang 教授が3日の議論の内容を発表することになっていたのですが、ご本人は同大学の Peijun Shi 教授とともに本会合に失望されておられ(私はこんなもんだと思っておりましたが)、北京宣言の14項目のアクションリストを紹介されたにとどまったのは残念でした。

2. 成都会議準備について

3日の科学技術コンサルテーション会議に出席予定であった IRDR の Shuaib Lwasa 議長、Qunli HAN 事務局長は ISC パリ会議で、IRDR の Irina Zodrow 氏は別用務で出席されず、まず日本関係者 (Rajib、西川、池田、中島各氏と小池) と IRDR IPO の Lucy Lu 女史、Fang Lian 女史で会議直後に打ち合わせを行いました。

Nation's Synthesis、会議の concept note については IPO では了解であるとのことでした。会議の成果を明確にするには、日本の取り組みの具体化と、IRDR の NCs と ICoEs を如何に involve するかが鍵であるという認識で一致しました。Rajib 先生からは、中央政府とのパイプがある NC、ICoE を選んで理解を広めるとともに、ともに具体的な活動を展開する事前の準備が不可欠という認識を示して頂き、ネパールやインドネシア等の具体の事例をご紹介いただきました。

3日の夜、UNISDR の新垣さんと電話で議論し、UNISDR としても、Nation's Synthesis、会議の concept note については了解であるとされたうえで、最近の国連内での SDGs の動きに関連して、UNDP から提案されている platform の考えが、国連のなかで主流になりつつあるので、DRR National Platform を前面に出したとき、各国が混乱しない配慮が当面必要とのお考えが示されました。

会議の規模は50名程度で、比較的少数で集中的に審議する会議にするということと UNISDR、IRDR ともに了解されており、ロジ関係は IPO が責任をもって行い、招聘は UNISDR、IRDR、SCJ がそれぞれを担当とということと了解されています。日本からの参加は各自前の予算でお願いすることを基本とさせていただきますが、必要に応じて防災科研のご支援を

お願いすることを林先生にご了解頂いております。

3. 会議全体について

佐谷さんのご努力下、下記のサイトにあります通りウランバートル宣言、Action Plan ともに議論させて頂いた内容が反映されました。

https://www.preventionweb.net/files/56219_ulaanbaatardeclarationfinal.pdf

https://www.preventionweb.net/files/56219_actionplan20182020final.pdf

次は中核的な事例をつくりあげて、閣僚宣言にアジア各国が協力して進める具体的な行動を盛り込めるようにしたいと思います。引き続きご協力をお願いいたします。